

1 情勢報告

JA四万十管内大野見地区普及推進協議会の開催（6月23日）



大野見協議会

中土佐町大野見庁舎において、代表農業者・中土佐町とJA四万十の関係者に出席いただき、普及推進協議会を行いました。

振興センターから産業振興計画、普及指導計画について、また農業センサスの数字等で担い手の状況を説明し、意見交換を行いました。農業者からは、共同利用機械の更新の心配、集落営農の取組への支援策、農家間での大野見米のブランド化の取組の意識に差があることや、直販所の取組の推進などについて話されました。いただいた意見等を今後の普及活動に活かして行きます。

JA土佐くろしおニラ部会現地検討会が開催されました。（6月24日）



篤農家ハウス前での現地検討会

平成23年度第1回の現地検討会を篤農家ほ場で行い、株養成期の栽培管理技術などの篤農技術の移転を図り、併せてIPM技術、UVカットフィルムの実証結果と効果等について情報提供と指導助言をしました。

出席者から株養成期の活着促進技術や病虫害防除対策等が理解でき、今後の管理作業の参考になったとの声がありました。点滴チューブを利用した灌水同時施肥技術が、効率的であることが確認されました。UVカットフィルムについては、あまり関心を示しませんでした。

現在、振興センターでは、JAと連携し、天敵「スワルスキーカブリダニ」によるネギアザミウマ防除現地実証等を行っており、今後の研修会・現地検討会等でその実証成果の周知・普及と篤農技術の移転等を行い、高品質多収技術につなげていきます。

JA土佐くろしお管内普及推進協議会の開催（7月1日）



JA土佐くろしお協議会

JA土佐くろしお販売課会議室において、代表農業者・中土佐町・津野町・須崎市・JA土佐くろしおの関係者に出席いただき、普及推進協議会を行いました。振興センターから産業振興計画、普及指導計画について説明し、意見交換等を行いました。農家・関係機関の方からミョウガの排液装置の今後の対応、主要品目のIPM技術の状況・取組、担い手の状況・新規参入者への支援等について話されました。

振興センターの考えを知ってもらい、意見をいただきました。今後の普及活動に活かして行きます。

1 情勢報告

大野見産米エコ研究会現地検討会の開催（7月12日）



大野見米現地検討会

大野見産米エコ研究会員（農家、JA、役場、振興センター）14人が中土佐町大野見庁舎で特別栽培米の取組み等について協議し、実証ほの耕種概要等を確認しました。

その後、除草剤試験ほ場や特別栽培にとり組んでいるほ場6カ所で生育状況等を確認し、栽培管理などについて情報交換を行いました。農家からは土づくり、施肥、水管理等についての意見交換が行われました。また、今後の研究会活動として先進地視察等行うことなどを話し合いました。

振興センターは、今後も研究会活動の支援を行い、大野見米のブランド化を進めます。

ミョウガの市場事故防止のための「水やけ症」対策を徹底しました。



「目慣らし会」の様子

J A土佐くろしおミョウガ部会は、6月29・30日と7月5日の3日間にかけて管内の3つの集出荷場で、合わせて8回の出荷目慣らし会を開催しました。この会は、7～8月の高温期に腐敗によるミョウガの市場事故を防ぐために実施されました。

J Aからは、腐敗対策に関する市場からの要請等に加えて、生産者による選果選別の徹底や出荷場の検査体制の強化を説明し、市場事故防止に強い決意をもって産地全体で取り組むことを確認しました。

振興センターからは、腐敗の要因となる「水やけ症」対策として栽培と出荷調整の管理について周知しました。

振興センターは、J Aや関係機関と連携して、ミョウガの最需要期である夏場に市場事故を発生させないように対策を進めます。

J A土佐くろしお露地シシトウ部会、出荷始め総会および現地検討会の開催



現地検討会の様子

7月7日に露地シシトウ部会の出荷始め総会が開かれ、本年度の事業計画、生産出荷計画等が承認されました。

また、7月11～13日には、5地区において、露地シシトウ栽培の現地検討会が開催され、「今年の気象とこれまでの生育について」、整枝技術等を中心とした「今後の管理について」検討されました。本年度は、販売単価が高く推移していることから、農家の栽培意欲も高く、参加人数も多くて活発な検討会となりました。